

あわよくば

2 MARK 勝負

実況アナウンサーの魅力と、交流戦のススメ

私は昔、いわゆる「実況マニア」だった。憧れが強すぎて、実況アナウンサーを目指した時期もあったほど。

ボートの主役は、もちろん選手たち。ピットアウトからゴールまでの約4分間、そんな彼らの動きを際立たせてくれるのが実況という存在だ。

かつて、SGといえは、実況の顔ぶれも決まっていた。内田和男さんを筆頭に、北嶋興さん、小林習之さん、松岡俊道さん……彼らの声は、SGの代名詞でもあった。

そんな状況が少し変わったのが、3連単が導入された2000年頃からだ。各レース場のアナウンサーがそのままSGを担当するようになり、今ではレース場ごとに実況アナウンサーの「声の特色」が定着した。

レースを見ずとも、声を聴けば「これは住之江」「これは戸田」と分かる人も少なくない。そうした耳で楽しむボートレースも、ファンにとつては魅力なのではないだろうか。

ところが最近、面白い動きが出てきた。びわこで住之江の市岡学アナの声を聴く機会があった。さらに、浜名湖では戸田や徳山でお馴染みの二宮淳一アナ、津では宮島の土谷由美アナがマイクを握るシーンも。

不思議なもので、二宮アナの声が響く浜名湖は、広大な水面

がまるで狭い戸田のように錯覚してしまう。津でも土谷アナのセクシーボイスが炸裂した。

ボートレースの実況アナは、実に個性的な人が多い。しかし、その存在は決して表立つものではなく、名前さえ知られていないことがほとんどだ。そんな中、最近児島では、公式ホームページ上で実況アナウンサーと解説者の月間予定を公開するようになった。児島の場合、実況のほぼ100%は梶島健一アナが担当しているが、仮に違う人が節間を担当するとなれば、注目するファンも多いはずだ。

思えば、プロ野球では6月の「セ・パ交流戦」が定着し、非常に好評だ。同じように、ボートレースでも「実況アナ交流戦」があつても面白いのではないだろうか。

たとえば、事前にアナウンサー交流企画として告知し、児島にびわこのアナ、浜名湖に宮島のアナを呼ぶ。お気に入りのアナウンサーの実況が聴けるとなれば、そのレースに注目が集まり、ファン層の拡大にも繋がるだろう。

声は見えない。けれども、レースを彩る、もう一つの主役であることは間違いない。だからこそ、そんなアナウンサーたちにもっと光が当たるボートレースを私は見てみたい。

(ウエスギ)